

エッセンス・フ レンド

人類の平和的革命



ヴィジョン&リアリティ

この文章について

私の病気が治るのは、人々にビジョンを残し、それをあらゆる場所に広めるといふ、あらゆる努力をしたときだけです。

あなたの目の前には、このビジョンがあります。16年間の模索と研究、そして妄想と偏執がこの文章を生み出しました。次のページでは、病気がどの森、水、暗闇、天罰を介して私を人生の「閉塞」からこのビジョンへ、そして光へと導いてくれたかを知ることができます。

この光は、次のようなラインから輝いています。ぜひ、ご一読ください。少しでも気持ちが楽になります。そして何よりも、私のビジョンが守りたいのは、ユニークな生物や自然の驚異が存在するこの地球です。この文章は、私たちを励まし、幸せで健全な未来を与えるためのものです。

あなたの自然の友

エッセンス・フレン
ド

人類の平和的革命

刷り込み。

www.dierevolutiondermenschheit.info 電子

メール : wesenfreund@gmail.com

© 2020 Being a friend

Photos: Pixabay

Enough!

世界中で十分な犠牲者と
回避可能な苦しみがあつ
たし、今もある。

自分の子供は？

はい、そうしたいと思いま
す。しかし、それは私が世
界をより良い場所にしてか
らです。

あなたの自然の友

目次はこちら

誇大妄想？	ページ 8
友達になるということ	ページ 12
"苦しみ"と"うそぶき"	ページ 20
私たち「自然の驚異」の	ページ 23
奇跡が奇跡を呼ぶ	ページ 24
関連	ページ 24
とナイフの	ページ 25
太陽の帝国	ページ 26
希望の痛み	ページ 29
平和な革命 人類のために	ページ 31
国連からの指令 グローバルな再分	
配について	ページ 36

アクセス	ページ 40
個人的な 関心事	ページ 40
著者紹介	ページ 41

誇大妄想？

私の名前はヴェッセンフロイントです。私はメガロマニアックです。お医者さんもそう言っています。

しかし、誰かがこのビジョンを展開し、人々に届けなければなりません。

私の手には、地球のイメージがあります。宇宙から撮影された私たちの惑星の写真は、皆さんもよくご存知でしょう。

太陽系の惑星をはじめ、さまざまなものを挙げるができます。地球はその中で唯一、私たちに生息地を提供してくれている惑星、それが「ブループラネット」です。

パラノイアになる前は、ほとんどやったことがなく、ごくまれに地球の写真を見るくらいでした。私の生息地は、多くの人がそうであるように、自分の住んでいる地域や村でした。忙しい日常の中で、その先に目を向けることはほとんどありません。私たちは、都会や別の地域に仕事に行くこともありますが、その後、生活環境と呼ばれる場所に戻ります。しかし、私たちの住む世界はもっと広い。



近所にはたくさんの知り合いがいて、家族や恋人、友達がいて、買い物や仕事に行ったり、テクノミュージックやエクスタシーの薬があるクラブに行ったりしていました。私は人間と同じように生活していました。

これらはすべて、パラノイアになる前の話である。現在、私の生活空間は変わっています。考え方が変わりました。私は今、毎日のようにこの宇宙から撮影した地球の写真をんでいます。手に取ってみると、本当の生活空間が見えてきます。私たちの住む地域、地区、村、コミュニティ、国、大陸のすべてが全体の一部であること。考えてみれば誰でも知っていることです。しかし、私がパラノイアになってから行ってきたことを、ほとんど誰もやらないし、気づかない。

この写真を見ると、私たちの地球が見えてきます。もうどれだけ傷ついたことか

。

古いジョークが頭に浮かぶ。

"2つの惑星が出会う？お元気ですか"と一人が尋ねる

。

"Not so good,"という返事が宇宙に響く。"

have humanity"

"Oh, "と他の惑星は言う。"心配しないで、この病気は自然に消えるよ"

もしかしたら人間は自分で消えてしまうかもしれない。しかし、それでも数百万年はかかるだろう。しかし、私たちの終わりでも、明らかに急いでいます。急ぐことには慣れていきます。私たちは地球を破壊します。それを利用して生活し、それを破壊する。行き場を失ってしまう。そうしないと、私たちの子どもや孫たちが住む場所がなくなってしまう。上のジョークが現実になってきた。私たち人間は、愚かなジョークになってしまう。

私たちを結びつけ、維持し、養ってくれている地球への感謝の気持ちを持ってほしいと思います。

1日1回、青い地球の写真を見る。それを拾って、財布に入れる。友達や家族の写真を入れておく場所ですね。地球の画像をスマートフォンの背景としてインストールしたり、友達と共有したりすることができます。私たちの地球は、これほど素晴らしいものはありません。私たちは、新しいSUVや、「封鎖」が私たちを駆り立てるその他のでたらめなものよりも、それを崇拜し、祝い、大切にしなければなりません。

私もこの「封鎖」の間で生きてきました。病

気をきっかけにして、そこから抜け出した

を出しました。これが16年続いた。周りからは、現実の生活をあきらめているような目で見られていました。その過程で見つけたのが私たちの「閉塞感」をいくつか挙げてみたいと思いますが、後で一緒にお祓いをしなければなりません。

妬み、恨み、出世主義、男女差、肌の色
、世界の富の分配。

国籍、宗教、タックスヘイブン、
産業動物殺人、アンバランス

クライメイト・ジャスティス

友人の道

私の旅の様子をご紹介します。私の病気が、いかにして私を世界から救い出したか "閉塞感"と闇が光の中に踏み込んできて、視線が広がりました。私の狭い隣の生活空間が、地球のことを考えるために広がったように。そこで、お話する前に、もう一度、地球の写真を見てみましょう。これは何度やっても同じです。

私の人生は、ごく普通に始まった。学校に通い、子供時代を過ごし、家族や友人を愛した。

青春が始まった。そしてまたすぐに終了。私が14歳のとき、キッチンの床に血まみれの父を見つけました。彼の額に手を当てると、冷たくなっているのがわかった。あの冷たさは忘れられません。自殺の寒さ、絶望と絶望の寒さです。私は後になってとても冷たくなることがよくありました。

私は教育を受け、仕事を見つけ、兄を尊敬していました。6歳年上の彼は、すでにビジネスマンとして成功していました。これは、私の道でもあるはずだと思いました。しかし、結果はまったく違っていた。テクノやハウスが私の音楽でした。明け方まで踊りに行くことも多かった。どれだけいい気分だったか。全てを振り切った。父の風邪も、他の方法では絶対に治りませんでした。

誰かがこの薬を持っていることもあった。XTCです。彼らは素晴らしかった。なぜなら、この赤、青、緑、黄色の薬を使って、無限に踊ることができたからです。純粹な幸せでした。私の頭が耐えられなくなるまで。すべての色が消え

、残った

黒しかない。頭の中で数字が動いていた。彼らは私を迎えに来たのだ。

「誇大妄想的な統合失調症」と医者は言っていた。今から約17年前、私の人生は分裂していた。私の背後には、私の子供時代、そして父の死、青春時代、ダンス、恋人。私は彼女を失った。それ以来、彼女に会うことはなかった。

私の目の前にあるのは、暗闇と、光への理解しがたい約17年の旅であった。頭の中が真っ黒になることがよくありました。恐怖と悪に満ちています。これを医者はパラノイアと呼んでいる。それは残酷なことです。しかし、それが私を解放してくれました。長い年月を経て、「ブロック」を覆し、「善と悪」という

古い

強迫観念を自分の存在から取り除くこと

ができ自分にはでき

ると思い、計画を立てました。私は悪とそのスナイパーを私の足跡に誘い込み、草原を越えて森へと導き、最後にドイツ連邦軍に破壊させるのだ。

悪は弱いものを取りたがる。それはわかっていました。だから子分たちは、病人である私

が、もしもの時にはやっけて

Meadowはリンプしました。見つけるのも、追跡するのも、撮影するのも簡単。

私は松葉杖を持っていきました。必要のないものだが、それに寄りかかりながら、私は足を引きずってアパートを出て、通りを下り、家々の間を抜けて、草原の広場に出た。これで、悪人に見られてしまう。

前かがみになって体が弱っているように見えるので、森の端に近づくと、靴や松葉杖の周りで草が遊んでいました。子供の頃の歌が頭に浮かんだ。ベルリンの壁が崩壊するまで、私たちは現在のケムニッツで、かつてはカール・マルクス・シュタットと呼ばれていた街に住んでいました。それは、私がドイツ民主共和国で愛国心を持っていた頃の歌で、最初は静かに口ずさみ、最後は声を出して歌った。

「兄弟よ、太陽に、自由に、兄弟よ、光に！」。

暗い過去から明るい未来を照らす

」。

もう少しで森に到着するところだった。邪悪

なものは、私を見なければならなかった。そして、それはやってきた。私はそれをはっきりと聞いた。私はもっと大きな声で歌い、松葉杖を脇の下に挟んで足を運び、その間に

木々や葉っぱのひびきが私を裏切ってくれ
ます。

私が立ち止まると、死んだような静寂が私を
包んだ。一人でいることには慣れていました
が、こんなに寂しい思いをしたことはありません
でした。その人たちはきっと、遠く離れた
別の惑星を植民地化しようとしていたのだ
ろう。私だけが忘れられていた、もしかした
ら意図的に置き去りにされていたのかもしれ
ない。

私は森の中で必死になって「私は」と言った。
"the last man"

私は数歩進んだ。木の葉が再び揺れた。その
音が私を裏切ってくれる人は他にいないのだ
ろうか。悪です。きっと人間が遠い星への旅
の途中で置いていったものだろう。残ってい
ました。感じました。枝が顔に当たる。走り
出したのである。邪悪なものが、近づいてく
るのが聞こえた。それは私を捕まえようとし
ていた。今です。

子分の犬に威嚇されてたどり着いた。私の肉
、骨、すべてを欲しがった。私は恐怖で吠え
た。私は熊のように叫んだ。動物を追い払っ
てくれた。犬の間に道があることを認識して

、いつものように、そしてずっと

すべてのものには道があり、その道を通って森を駆け抜けていった。

まるで人間がもたらした破壊に対する自然の復讐のように、木の枝が私を打ちのめす。ふとした瞬間に壁にぶつかった。大急ぎで飛び越えた。あの世でどれだけ落ちていたか。しかし、私は何もせず、おそらく不死身で、森の湖の水の中を走っていました。

私の上には星がある。また、怖くもありました。それらは、悪が私を追跡するための衛星に過ぎなかった。どこまでも追いかけてくる。痕跡を残さないこの海でも

魚が私の足の周りを歩き回る。邪悪なものが私に向かって押し寄せてきた。その息遣いを感じた。それは、ヒスを起こして押す。しかし、それは一向に近づいてくる気配がない。

私が立っているこの水域は、夢の中で知っていました。この湖の底で、私はずっと何かを探したいと思っていた。魚が私を迎えてくれた。私を待っていてくれたようだ。私が頭を突っ込んだ腰までの高さの水の中では、

鞭打つような枝と対照

的に

和や

かな

と、強迫観念的に潜るようになりました。ずっと探していた笏（しゃく）を見つけなければなりませんでした。それを手にすることで、人類をあらゆる苦しみから解放することができます。何度も何度も潜っては水面に出て、松明が点滅しているのを見て、目が覚めてしまった。

湖を囲んでいた。私の中の熊は黙っていて、休みたがっていた。漁港のオーナーが警察に通報し、警察が医者を呼んだ。今、彼らはそこにいて、私を救急車に連れて行き、その光の中で注射器に液体を抜きました。

私のリーサルインジェクション。他には何も考えられなかった。針が埋まっていくのを見て、死にたくないと叫んで反発した。注射器を脇に置き、鎮静剤を投与されました。

30分後、男性は私をシャワーに連れて行きました。海水で洗ったほうがいいよ」と言われ、水道の蛇口をひねった。私はそれを自分に降らせた。震えている。今にも下水道から出てきて私を引き裂こうとしているゾンビのことしか考えられなかった。



「苦しみ」と「うそつき」について

クリニックでは、妄想が消えました。地獄を見たのだ。松葉杖を脇に挟んでわざわざそこに入り、野原や森、水の中を歩いてきたのですが、まさに恐怖の連続でした。しかし、私は地獄を乗り越えた。

彼女はもう過去の人になってしまった。凍結された思考の組み合わせである「善」と「悪」が私の中で存在しなくなったように、私もそれを頭の中から消しました。人為的な恐怖を経験したことで、それが崩れてしまった。壊れた私の目の前には、「善」と「悪」という言葉が並んでいました。たくさんの文字。

B・O・E・S・

EG・U・T

新しいことの始まり。ただ、それを見つけなければならなかった。キューブ状の文字を長い間押し、アナグラムを形成する。"悪"では"湖"を見つけ、"杖"を思い浮かべ、正しい道を進んでいると思いました。

善」と「悪」という極論は破綻しています。それはもう、記述してもしょうがない。

私たち人間が、お互いに、そしてこの地球に何をしているのか。思わず2つの言葉を入れ替えたくまりました。静かに、思っていることを口にした。

苦しみの

大胆になりました。その言葉を、より力強く、全身に響くように言ってみました。私は自分の「ブロック」を壊し、その鎖を断ち切り、世界中に向けて叫んだ。

“自分と世界に苦しみをもたらすのは、なんと愚かなことが

私たち「自然の驚異

また、「人間」という言葉を文字にしてしまうことも多い。私は目の前のテーブルに転がっている小さな立方体を見た。

M・E・N・S・C・H

私は、人間にまつわる多くのことを恥じていました。すべての生き物を確信していること、搾取、破壊、貪欲、そして苦しみ。私はこれらの「ブロック」が嫌いでした。アナグラムを探して文字をずらしてみましたが、一つも見つかりませんでした。

人間」という概念が破綻している。

暗い部屋の中で、「自分を改革してみませんか」と静かに願った。私の中にあるビジョンを見つけ、それを口にする。

“生き物”でも“神の生き物”でも“人間”でもない。すべての生物、つまり人間も動物も植物も、それぞれが個性的であり、感動を与えることができるからです。
私たちは皆、自然の奇跡なのです。

奇跡が奇跡を呼ぶ

その後も様々なエピソードが続く。精神病の症状が出て、家から追い出されてしまった。狙撃手はスコープで私を監視していた。この武装した男たちの一人一人が、後に気づくことになるが、我々の封鎖の一つを象徴していた。彼らは私を逃がさなかった。ここでも彼らの名前をいくつか挙げておく。

妬み、恨み、出世主義、男女差、肌の色
、世界の富の分配。

国籍、宗教、タックスヘイブン。

産業動物の殺人、偏った気候正義

猟師のような姿をしている彼は、私たちが行っている工業的な動物殺し、つまり自然の驚異の殺戮、解体、細断を象徴しているのです。肉を食べている人を見ると、耐えられないほどの苦悩に襲われます。しかし、私は我慢して質問をします。

"ほんの数日前まで、自分と同じように呼吸し、感じ、命を愛していたものにフォークを刺すことを考えたことはありますか？"

地獄を見て以来、私は同胞にそのようなことを尋ねる勇気を持っています。誰かが肉にフォークを食い込ませたときの痛みを感じる。

宗教

他のスナイパーは、この世界の礼拝堂にいるのを見ます。を象徴しています。

宗教から発せられる「ブロック」。これで地球の痛みや破壊を食い止めることができるのではないかと思ったことがあります。あれは間違いだった。そして、宗教がいかに私たち人間を互いに引き離し、共存を妨げ、人類と地球を最終的に解放すべきすべての原因となっているかを実感しました。

帽子とナイフの

家では儀式の練習をしました。それによって、世界が良くなると思ったのです。帽子を取り、その後ろにナイフを置いた。私は今、目の前にあるすべてのものをはっきりと見ました。カウボーイや白人、彼の果てしない欲、そしてそれが私たち人間にもたらす危険性です。貪欲さは人間の本質なのか？」という問いが私を捉えて離さず、私の小さなライムが浮かんだ。

「広告や人工的に喚起された欲求で意識を殺している人は授乳をしながら買い物をする」。

まるでおもちゃのように、人々は時に私をショッピングゾーンの無限の消費の中に追いやった。どこにでも危険が潜んでいて、私を欲と「封鎖」の渦に引きずり込もうとしていた。一度は我慢できずに服を破ってしまった。裸で、体に消費の痕跡がなければ、生きていけない。そんなことでは、私は捕まらない。そして、自由になった私の周りでは、すべてが凍りついてしまった。塩の柱のように

隣の通行人聖書の物語に出てくる口トの妻が頭に浮かびました。彼女は、神に滅ぼされたソドムを最後にもう一度見ようと振り向いたのですが、そのソドムは彼女の目の前でショッピングモールのように燃えていました。

太陽の帝国

私は膝をついて、太陽を見上げた。狙撃手は姿を消していた。そしてそれとともに、先ほどまで空を暗くしていた暗雲が立ち込めてきた。太陽の光が体を温めてくれる。太陽 - 私は、人生のすべての不思議と肯定のように、太陽にお辞儀をしました。

多くの女王や王は、生命を真に尊重し、保護しているため、創造の王冠に値する。とはいえ、太陽は奇跡の中でも最も偉大なものです。それがなければ、暗く、冷たく、生気がない。何十億人もの女王や王を擁する太陽の帝国ほど、創造が急がれるものはありません。

裸でひざまづいて拝んだときのように、太陽の下で体を温めてください。強く



肩を指で掴まれたり、男たちに話しかけられたり、顔を横にして日差しに押し付けられたりした。警察官とレスキュー隊員が私を取り合っていた。警察官は公共の迷惑をかけたということで私を連れて行こうとしましたが、レスキュー隊員が精神的な異常を話し、警察官を説得し、私は病院に連れて行かれました。担架に乗せられて病室を横切った。「私は横を歩く警察官を見上げて、「財布をお願いします」と言った。もう必要ありません。"私はポケットから財布を取り出し、それを目の前に掲げて、文字通り警官に突きつけた。私は、自分が地上を離れて天の御国に入ろうとしていることを確信していた。

警察官は私の財布を受け取らなかった。また、私の道は天の国につながるものではありませんでしたが、病院から精神科病棟へと車で送ってくれました。

「彼らは私を強制収容所に連れて行こうとしている」というのが、私の唯一の真実であった。私をそこへ連れて行ってください、無限の死へと」。

私は母のことを考えた。さよならの言葉

震える唇に言葉が浮かんだ。あの日、私は地獄を経験し、それを乗り越えた。

希望の痛み

ここでも医師は「精神病エピソード」を指摘し、薬を渡してくれました。欲しいとは思わなかった。決断しました。復旧は待つてほしい。結局、精神病のエピソードは、それを封じ込めることも、体外に排出することも望まないほど、強烈な実感に満ちていました。

私は、これらの洞察に対して自分自身を完全に開放したいと思いました。彼らを私の上に来させ、世界に運ぶ。そうやって自分に誓って、この文章を書いて皆さんの前に立っています。

彼女は恐怖に満ちている。もう知っていますよね。しかし、恐怖と私の痛みを乗り越えて、私たちは行かなければなりません。一緒に数ページ歩いてみましょう。このラインの終わりに、私のビジョンと私たちが共有する希望に。

パラノイドは、世界に対する自分の認識を、急激で恐ろしいものと表現します。私は、頭の中で起こる終末論を病気のせいにして、「私も同じだ」と思っていました。今日、私はよく知っています。私の世界に対する認識は、病気によって高まっているわけではありません。

私たちが地球を破壊し、武器を生産し続け、戦争をし、自然の驚異に果てしない苦しみを与え、大量に殺害することは、私がそう感じているのと同じくらい恐ろしいことなのです。病気のおかげで目が覚め、感謝しています。

世界の状況は、物理的に私を苦しめます。全員が同じであれば、これが私たちの救いになります。痛みを駆られて、政治家に新しい道を歩むように促す、いや、強要することがどれほど早くできるだろうか。

時間をかけてください。自分の中で感じてください。人間がやっていることは本当に正しいのか？隠れているものを引き出して、まったく違うものにできないか。自分自身をより深く感じてください。これは簡単なことではありません、わかっています。封鎖」や「日

常」がまとわりついてくる。応援してくれていると思っています。しかし、実際には私たちの息を呑むようなものであり

自由は、苦しみと破滅をもたらす。
閉塞感を乗り越えて、感じ続けてください。
あなたは成功するでしょう。私が何年も前から知っていた、この心の痛みを見つけてください。それをきっかけにして、立ち上がりましょう。「封鎖」からの脱却。私たちをより良い未来に導くために、パワフルな人々に働きかけてください。一緒になければ成功しないからです。

人類の平和的革命

"Respect is the heart of a peace world"
この名言がどれほど気に入ったことか。ベルトルト・ブレヒトを読むまでは。

*"First comes the food,
then comes the morale"*

ブレヒトの「Threepenny Opera」の言葉は真実である。この真実が、私たちの第一の目標となるべきです。

地球上のすべての人に尊厳あるベ
ーシックインカムを。

飢餓とそれに伴う苦しみ、人種差別



この青い地球上のあらゆる場所で、排除を止めなければなりません。私たちはそれができる。私たち "自然の驚異"には、世界を苦しみから救うための奇跡的で強力な力があるのです。閉塞感」のない景色は、私たちに彼らを開放してくれます。私たちは良いことをして、それが幸せなのです。

きっと誰かを助けて良いことをしたのでしょうか。その行為は素晴らしいと思いませんか？私たちが扱っているもののほとんどよりも、より深く、より強力で、より人間的なもの？

世界から飢えと苦しみをなくすことができたとき、この気持ちはどれほど力強く、幸福感にあふれていることでしょうか。二人を自作自演の地獄に送り込み、自滅させる。さらば、老いた地獄よ。アデュー、昔のわがままな男よ。私たちは、「人類の平和的革命」の始まりとして、新しい意識と世界的な再分配の準備をしています。



国連による世界の再分配の指令

世界的な再分配、つまり世界から飢餓をなくすという使命を実行できるのは、国連しかありません。私たちは、地球上のすべての人々に尊厳ある基本的な生活を保証する世界的な流通機構を確立するよう、彼らに執拗に迫らなければなりません。

それが第一歩です。膨大な量です。しかし、私たち人間は、物流・販売の達人です。心から欲しいと思ったり、魂に深い痛みを感じたりすると、ほとんどのことが成功します。それが私たちの強みです。最終的には、良いことに使いましょ。事前に多くの疑問が生じます。ここではそれにお答えしたいと思います。

はなぜ必要なのでしょうか？

「グローバル・ベーシック・インカム」？

この地球上には、飢えている人もいれば、豊かに暮らしている人もいます。貧富の差は非人道的というよりも、むしろ大きい。何か意味のあることで対抗する必要があります。何

ができるか

すべての人にグローバルなベーシックインカムを提供すること以上のものはないでしょう。

ベーシックインカムはなぜグローバルでなければならないのか？

金融と世界経済はグローバルに結びついています。だからこそ、価値を生み出している国で税金を徴収し、その資金を必要に応じて援助することが重要なのです。

私は、この世界的に最も重要な、人々を結びつける思いやりの証を深く信じています。人間同士の距離が縮まり、戦争の危険性が減ります。ブレヒトが皮肉ったように、「食べ物」がそこにあるのだ。モラルは後からついてくる。これでようやく、生命と地球に対する敬意を永続的に育むことができます。

なぜ国連がグローバル・ベーシック・インカムを推進する必要があるのか？

いかなる国家も、いかなる工ゴも、平和で供給の
行き届い

た世界共同体の邪魔をしたり、それに混乱を
与えるような影響を与えてはならない。すべ
ての国

と、すべての人口がこの考えを確信することができ、またしなければなりません。国連は、その主な出資者である米国に立ち向かう勇気を持たなければならない。それでも、彼らは成功し、独立性を高め、最終的には私たちの共通の使命のために、より多くの資本を集めることになるでしょう。

グローバル・ベーシック・インカムは誰が徴収するのか？

国連 - 国際的に認められた組織として
- 義務的なグローバル・マンドートの後

国連はどのようにしてお金を集めるのですか？

デジタル決済による基本的な公共料金の税として

国連はベーシックインカムをどのように分配するのか？

国連はすでにヨルダンなどで、
アイリススキャン、指紋スキャン、ブロックチェーン
ごとにお金分配しています。これは、国際的にも安全で賢明な方法でしょう。

基本的な生活のための資金は誰が出すのか？

ベーシックインカム財源の財源は、グローバルな価値創造プロセスに関わるすべての収入に対する税金です。さらに、富裕層に対するグローバルな税金も導入されます。なぜなら、どんな人間でも10億ユーロ以上のお金がないと生きていけないからです。より大きな富は社会化され、ベーシックインカムとして国連から分配されます。

私の計画がユートピアのように聞こえると思いますか？いいえ、そうではありません。確かに先見の明があります。

しかし、私たちはそれができる。

今回ご紹介するのは、「グローバル・ベーシック・インカム」です。

それは人間としての義務です。

もし病気が許せば、自分で国連のポジションに応募し、世界的な配給プロジェクトを主張し、また必要であれば戦います。

私が写真としてこの手に持っている、私たち

の共通の家をもう一度見てください。私たちの地球。どこかに立っている。私は遠くにいます。同時に、私たちは近い

この地球上で、そして未来への共通の願いを
込めて。それを実現させましょう。最終的に
はそれらを始めましょう - 私たちの
"人類の平和的革命"Your being friend

アクセスの約束

排除する者は、仲間を裏切る。

この本を無料で受け取りたい方、オンラインで読みたい方は、こちらをご覧ください：

www.dierevolutiondermenschheit.info

個人的な関心事

世界中のこの文章を批判する人たちへ。

すべての人類とすべての生き物のために、特に弱いもののために、もっと頑張ってください

募金の呼びかけ

啓発の名のもと、寄付金の100%は、この執筆プロジェクトの効率的な広報活動に使われます。

Paypal: wesenfreund@gmail.com

バンク：C24

iban: de56 5002 4024 0462 2001 01

bic: deffdeffxx

著者

地球に生まれたこと。あなたも？

私たちの間には類似点があるように思えます :)それは結局、素晴らしい基盤なのです。

もっと詳しく知りたい方は私はカール・マルクス・シュタット（旧ドイツ民主共和国）、現在のケムニッツで生まれました。

ここで、すべてのケムニッツ人、ドイツ人、ヨーロッパ人、地球市民、そして一般的には、私たちの故郷である地球の内外のすべての存在に対して、温かい挨拶を送りたいと思います。